

## 第 69 回原水禁世界大会・ヒロシマ

# 安心で平和な日本を築く 全自交労連の運動の柱

2014年08月04日 広島県立総合体育館に3300名が参加しました。

被爆 69 周年原水爆禁止世界大会・広島大会が、8月4日から6日にかけて、広島県立総合体育館で行われました。



4日の開会総会には全国から3300人が参加し、全自交労連からは広島地本をはじめ、全自交労連本部の森田書記次長、東京地連の直井書記長が参加しました。

犠牲者への黙とう後、主催者あいさつに立った川野浩一・大会実行委員長（原水禁議長）は「あの日から69年、被爆者は高齢化しており、継承が重要になっている。被爆者はこれ以上の犠牲者が出ないように祈ってきた。しかし、

3年半前に福島原発事故がおき、新たに被害者が出た。それにも関わらず安倍内閣は原発再稼働を進めている。また、集団的自衛権の行使容認で戦争のできる国にしようとしている。私たちは人類の未来のために、がんばらなくてはならない」と訴えました。また、被爆者の池田精子さんは「なぜ、人類は殺し合わなければならないのか。人類が核兵器を根絶できなかつたら、核兵器で人類は根絶されてしまう。これからも恒久平和を世界の人達に訴えていきたい」と述べました。

これに先立ち行われた平和記念公園から会場までの折り鶴平和行進では、真夏の暑い日差しがない代わりに、強い雨が降りしきる中、「核も戦争もない平和を求め、脱原発を目指そう」と、シュプレヒコールの声を上げました。広島市街を見渡しても、69年前に度重なる空襲や原爆で焼き尽くされた同じ地とは思えないほど、きれいに整備された町並みが広がる中、当時のままの原爆ドームの姿が目につきます。

被爆者の子孫にまで身体に悪影響を及ぼす原子爆弾の放射能は、東日本大震災での福島原発事故で非難を余儀なくされている住民の不安をより強くしているものと思われ、「核と人類は共存できない」という事実を、同じ日本で体現しているということに強い怒りを禁じ得ません。

安心で平和な日本を築くためには、核弾頭や原発の全廃を求め、全自交労連として今後も労働運動の柱の一つとして強く訴えていかなければなりません。